

第十三回与謝野町蕪村顕彰全国俳句大会  
前書俳句の部 入賞作品

与謝野町俳句大賞

ホスピス棟一階一号室

立ち尽くすその若き死に夕立に

東京都国分寺市

守屋明俊

京都府知事賞

勇気を出して花火大会

指と指触れて花火は可燃物

島根県松江市

寺津豪佐

与謝野町長賞

二〇二四年明けて大地震ふ

よく笑ふ子のありがたき二日哉

京都府京都市

うえの燕

宮津ロータリークラブ会長賞

母健在

灰汁巻と大書鹿兎島より粽

奈良県奈良市

貞許泰治

田中春生賞

はじめての曾孫

稚見せにこの日盛を来るといふ

兵庫県たつの市

竹内澄子

山尾玉藻賞

西瓜割のあと

西瓜どう切るかで子らの揉めてをり

滋賀県大津市

あびら擘山

# 選評一覽

選者 田中春生 山尾玉藻

与謝野町俳句大賞

ホスピス棟一階一号室

立ち尽くすその若き死に夕立に

東京都国分寺市 守屋明俊

【田中】前書がはっきりとその場の状況を伝えてくる。一階であることで夕立の地を叩く音も聞こえて来そう。激しい雨音のなか、若すぎる死に声もなく立ち尽くす作者。運命の過酷さが夕立に象徴されているようだ。

【山尾】若い入院患者の死を知った作者の激しい動揺が、上五「立ち尽くす」の言い放ちに表出されている。しかも「若き死に」「夕立ちに」の畳みかけて、心の揺らぎを一層強く伝えている。前書き「ホスピス棟一階一号室」に少々出来過ぎの感はあるが、事実であったのだろう。

京都府知事賞

勇気を出して花火大会

指と指触れて花火は可燃物

島根県松江市 寺津豪佐

【田中】「勇気を出して」意中の人を花火大会に誘ったのだ。花火は特に燃えやすい可燃物であることは当たり前すぎるが、それを巧みに援用して、指が触れ合うだけでも燃え上がる恋愛感情に重ね合わせたのが見事。

【山尾】若い男女が並んで手花火をしているのか、揚げ花火を肩を並べて仰いでいるのだろう。何かの拍子に互いの指と指が触れ、今まで以上に相手を異性として意識し始めたに違いなからう。硬質な「花火は可燃物」なるフレーズが詩として昇華する面白さが興味をひいた。

与謝野町長賞

二〇二四年明けて大地震ふ

よく笑ふ子のありがたき二日哉

京都府京都市 うえの燕

【田中】テレビをつければ惨憺たる地震被害の様子。しかしテレビを消せば、去年までと変わらぬ正月のわが家の風景。ふだんと変わらぬ子の笑い声が室内に響いているのだろう。無事であることの有難さを感じさせる作品。

【山尾】元日に勃発した能登半島地震に、日本中が一瞬にして新年の気分を失し、罹災者を思い胸を痛めた。二日、幼子はその不幸を知る由もなくよく笑い、落ち込みが

ちの作者の胸中を慰めてくれたのだ。本来の「二日」の本意本情から逸れるが、今年にしか詠めない二日詠。

宮津ロータリークラブ会長賞

母健在

灰汁巻と大書鹿兒島より粽

奈良県奈良市 貞許泰治

【田中】母からの荷。いつものように太く大きく「灰汁巻」と母の字が付されている。今も変わらぬ母の元気な姿を確信したことだろう。普通なら灰汁巻を前書で説明するところが、句でわかるようにしているところがユニークな作品。

【山尾】「灰汁巻」とは木や竹を燃した灰の灰汁に餅米を浸し、孟宗竹の葉で包んだ鹿兒島県独特の粽らしい。里の母からその粽が送られて来て、包みには母の字で「灰汁巻」としっかりと大書されているのだろう。この「大書」から母の健在ぶりを喜ぶ作者の胸中が思われる。

田中春生賞

はじめての曾孫

稚見せにこの日盛を来るといふ

兵庫県たつの市 竹内澄子

【田中】はじめての曾孫と対面できる喜び。その反面、暑さの真つ盛りの中を来る孫と赤子への気遣い。元気なあの子だから大丈夫とは思うものの、心配が先立ってしまった作者。家族の深いつながりを思わせる佳句といえよう。

山尾玉藻賞

西瓜割のあと

西瓜どう切るかで子らの揉めてをり

滋賀県大津市 あびら嘩山

【山尾】一個丸ごとの西瓜を如何に切るかを詠んだ作品はこれまでに多々あったが、前書きに「西瓜割のあと」とあると一句が俄然愉しくなってくる。棒で無闇矢鱈と打ち砕かれた西瓜の形や大小がまちまちであるだけに、西瓜を囲む子供達が揉めるのもよくよく判る微笑ましい一句。

# 前書俳句の部 入選一覽

田中春生選

賞候補

介護施設入所の夫に会いに行く

炎天を逢瀬のごとく夫見舞ふ 鹿児島県鹿児島市 寶來喜代子

家庭菜園の初収穫

唐黍の挽ぐ音放つ明けの空 沖縄県那覇市 渡嘉敷五福

由比ヶ浜

虚子拾ひ立子拾ひし桜貝 神奈川県茅ヶ崎市 塚本治彦

四年ぶりに開催された金毘羅歌舞伎大芝居

歌舞伎坂の役者幟や風光る 香川県高松市 井口直美

少しばかり後ろめたい乾杯に

曼珠沙華同窓会は後家ばかり 東京都稲城市 田村幸子

保健室

霜降も笑顔で解す白衣かな 福岡県福岡市 松本逸朗

延命を断らわって

延命を断ちて背負ふや蟬時雨 神奈川県大和市 おおもりじゅん子

能登半島地震

地震の記事湿りを帯びて今朝の雪 京都府舞鶴市 谷田明日香

佳作

明治十二年のコレラにより消滅した集落の跡

集落の跡は基礎のみ深雪晴 岡山県鏡野町 西村泉

那須塩原温泉にて

山の湯の風におどろく夕涼み 東京都世田谷区 斑山 羊

吹屋村小学校、リレーダンス楽しそうでした

山間の十三人の運動会 兵庫県西宮市 前田 忍

集合は道の駅

ライダールの艶の革靴麦の秋 京都府舞鶴市 仲まゆみ

能登地震

車駆く能登へ能登へと青田波 石川県金沢市 誉田裕子

老いの日々句会の席をたのしみに

一人には余る陽射や冬座敷 静岡県焼津市 平田きよし

我が余命を想うたびに

身ほとりにいつも妻あり春の風 静岡県静岡市 堀 和久

戦時遺産を訪ねて

白木槿地下工場の手掘痕 埼玉県東松山市 地田玉水

中学三年生、最後の登校日

黒板に恩師の文字や暖かし 福井県高浜町 堀口隆生

右膝人工関節手術を受けて

待つ人のをり緑蔭へまず一步 兵庫県尼崎市 桃原晴美

運転免許証の自主返納を終へ車を見送る

思ひ出はみなかげろふへ溶けてゆく 東京都世田谷区 池田のりを

園のテラスに置きある靴箱に潜むものは

意を決し女園長 蝮捕る 京都府与謝野町 杉本美寿津

能登の大地震で、傷んだ田に、射す月を見て

ひび割れの田の底にまで梅雨の月 石川県金沢市 茂野 勝

北口樺花選手金メダル

槍投げて破顔一笑秋高し 神奈川県川崎市 沖石讚岐

二十六歳で逝った子の今年は二十六回目の盆

魂迎ふ生きしと同じとしつきを 愛知県知多市 寺部系子

推しがいたのね

魂迎祖母の秘密のプロマイド 京都府京都市 佐野瑞季

故郷の納屋を片付けて

軍服の伯父の写真や終戦忌 兵庫県尼崎市 上和田玲子

帰省してきた家族のくつろぎで

花莫産に大小足裏並びけり 兵庫県神戸市 高橋純子

摩文仁丘で玉碎の父を思ひ

我になほ父征きしまま終戦日 三重県四日市市 村田郁夫

山尾玉藻選

賞候補

長男の家の周りに毎年沢山の蕨が伸び楽しむ

蕨の香の部屋中にある暮しかな 千葉県千葉市 金子日出子

ウクライナ、ガザの映像に子らの傷ましい姿

戦火の子螢袋に救ひたき 岩手県盛岡市 木関借楽

夜桜や花の魍魅に逢はむとて 大石悦子

一たびは花の魍魅となりて来よ 大阪府大阪市 今井文雄

句友の計報に接し

目の前にいて故人なり花の雨 東京都世田谷区 関戸信治

どの舌も抜かれませんやうに

どやどやとパス横付けの閻魔詣 大阪府堺市 間谷雅代

被災地にて

盆踊りどんなもんじやと復興す 大阪府大阪市 亀澤邦男

学芸員某氏は

革靴が先に下りゆく夏河原 京都府八幡市 大山文子

能登の大地震で、傷んだ田に、射す月を見て

ひび割れの田の底にまで梅雨の月 石川県金沢市 茂野 勝

三才にて母に別れる

母の日や母知らずして母になり 京都府与謝野町 坂根幸子

室内の金亀子

かなぶんのはしやぎすぎとも怒りとも 京都府舞鶴市 坂井恭子

「はだしのゲン」「火垂るの墓」に寄せて

その頃はゲンも清太も皆跣足 石川県金沢市 高岡幸子

一月能登の大地震 元の千枚田を思いつつ

残りたるものに望みの田水張る 京都府与謝野町 白数宏子

佳作

会津只見線二年ぶりの全線開通によせて

汽笛一声万緑を貫けり 福島県会津美里町 野中憲子

見舞いに来てはめてくれました

おばあちゃんその服いいね夏は来ぬ 京都府京丹後市 山添敏子

3.11からの復興は道半ば

原発は明日を壊すと学んだ日 大阪府吹田市 渡辺秀爺

帰省中の桜島大噴火

あやにくによな降りしきる墓詣 兵庫県神戸市 川崎 慶

百寿の父、身罷りぬ

妻の待つところを目指し星流る 徳島県阿波市 大塚和子

全盲の父からの手書きの文が届いて

父からの文読み返す良夜かな 福井県高浜町 神谷美穂

気丈だった母も今は睡る場面が多く哀しい

花空木いつより母の睡り癖 京都府京都市 林游実子

戦前の手紙の中に

満州の消印のある文曝す 兵庫県神戸市 奥井瑩子

花火大会 はじめに慰霊三発

散りぎはは涙のやうに揚花花 東京都杉並区 菊地あきこ

母逝きて

母の座に猫眠りある春炬燵 兵庫県神戸市 杉岡吉風

四十年前のマチカネワニの化石を前に

秋暑し化石の鰐の顎に張り 大阪府大阪市 花房康子

白髪になりし夫の寝顔

あどけなき昼寝姿の頑固爺 大阪府茨木市 長尾由美子

明石海峡を越えてゆく燕よ

子午線を越え秋燕となりけり 兵庫県神戸市 水間千鶴子

野田川に暮らして

山と田のあひに家なみ冷奴 京都府与謝野町 山田祥雲

恋の果てに...

石蹴つて風の彼方の猫じやらし 東京都東村山市 伊藤宏亮

縁側にて、私と同じ二十三歳の祖父を知る

風鈴やビルマ表記の地図広ぐ 京都府京都市 中原 覚

石炭採掘中、人工的にできた山

ボタ山の裾野は祖母の蕎麦畑 兵庫県加古川市 半田美津子

舟上に人は笑いても鶉の哀れさと思う

疲れ鶉の星なき空を仰ぎけり 岐阜県多治見市 渡辺美晴

摩文仁丘で玉碎の父を思ひ

我になほ父征きしまま終戦日 三重県四日市市 村田郁夫